

漁海況年報

令和2年1月1日～令和2年12月31日

【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に直近20年間の半月毎の流型を示した。また、図2には令和2年1～12月における月の前・後半の代表的な黒潮流路を示した。

令和2年の黒潮流路は、平成29年9月に発生したA型が10月中旬～11月初旬頃にかけて一時的に解消されたが、それ以降は再びA型が継続し、年を通じてA型基調で推移した。

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)

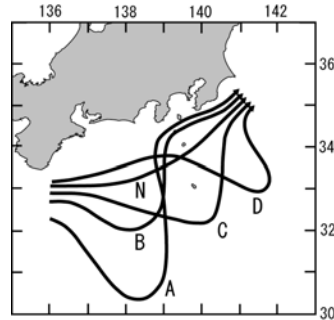


図1 黒潮流型の区分
(海上保安庁海洋情報部HPより)

表1 黒潮流型の経過

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
H12年	C	C	CW	W	W	B	BC	CW	WB	C	C	CB	B
H13年	C	C	C	C	C	C	C	WN	B	C	C	C	C
H14年	N	N	N	N	N	N	N	NB	N	N	N	N	N
H15年	N	N	N	N	N	D	NW	WN	B	BC	D	N	N
H16年	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
H17年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	D
H18年	N	N	N	NB	C	C	N	N	N	N	N	N	N
H19年	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	C	N	B	C
H20年	C	C	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C	C
H21年	C	C	C	C	C	C	WB	C	C	C	C	C	C
H22年	D	DN	N	BC	N	W	C	CD	D	N	N	NB	B
H23年	N	N	N	B	B	C	DW	N	BC	C	DN	N	N
H24年	N	N	N	B	C	C	N	B	C	C	DN	N	N
H25年	CW	ND	D	DN	N	N	NB	B	BC	C	C	C	C
H26年	C	C	C	C	C	W	C	BC	N	N	BC	N	N
H27年	N	BC	C	W	WB	C	C	C	C	CD	DN	N	NDW
H28年	C	CN	N	N	NB	BC	C	C	C	C	C	CB	BN
H29年	B	BC	C	C	B	C	C	C	CD	DW	W	B	C
H30年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R元年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R2年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	AB	N	NA

資料：海洋速報（海上保安庁） 関東・東海海況速報
*静岡県水産・海洋技術研究所一部改変

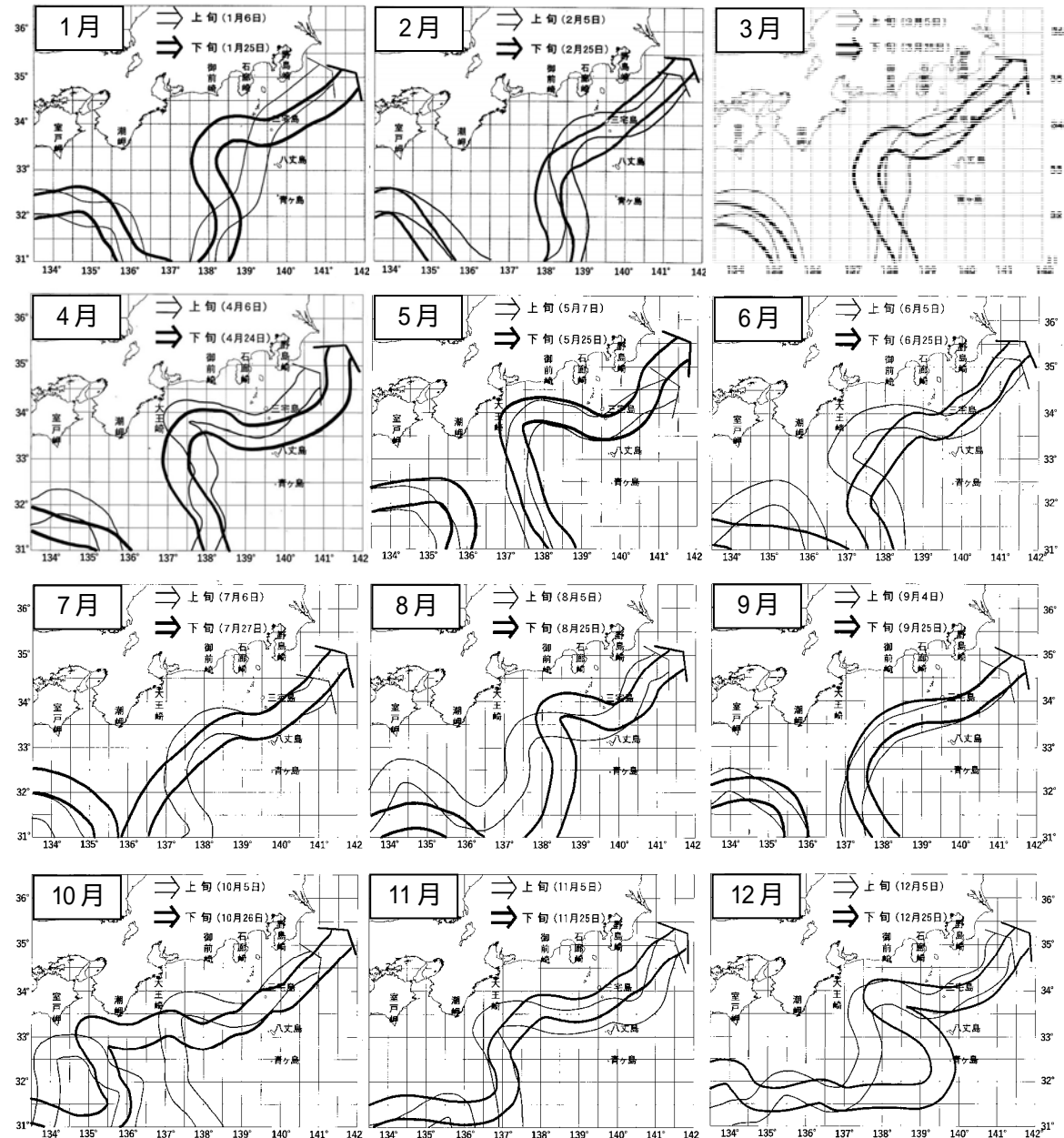


図2 令和2年の月別黒潮経路 (⇒上旬 ⇒下旬 関東・東海海況速報より)

[サバたもすくい棒受網]

1 たもすくい(令和2年1~5月、11~12月)

静岡県船のたもすくいの操業は、1月21日から利島でマサバ主体に行われた。2月上旬まで同海域は19台で推移し好漁となり、2月中旬も水温18~19台の利島で好漁であったが、下旬には水温が17台に低下し漁況は低調となった。3月上中旬になると、漁場は黒潮縁辺部の銭洲周辺海域に形成され、水温は継続して19台であった。

4月上旬は黒潮縁辺部の水温20台の三宅島周辺海域でマサバ主体の操業が行われ好漁であったが、中旬以降は徐々に低調になった。下旬は水温が17~18の伊豆諸島北部海域(ひょうたん瀬、高瀬、利島、大室出し等。以下北部海域と言う)で一時的に漁場が形成されたが、4月末には再び三宅島周辺海域に漁場が移り、マサバ主体で好漁となった。5月上旬になるとマサバの漁況が低調となったことから、静岡県船は棒受網の操業に転向した。

11月下旬以降、大島南部周辺海域でゴマサバ主体のたもすくい操業を再開し、12月上旬以降は好調に推移した。12月下旬まで同海域で漁場が形成され、今期のたもすくい操業は終漁となった。

2020年1~6月の一都三県主要7港¹における水揚量は、マサバが4,139トンで前年(3,202トン)を大きく上回り、ゴマサバが1,135トンで前年(897トン)を上回った。また、静岡県船の1~6月のマサバCPUE(1隻1夜あたり水揚量)は18.7トンで前年(17.0トン)を上回った。

1 千葉県：千倉・富浦、神奈川県：三崎・長井、静岡県：伊東・沼津・小川の7港。

2 棒受網(令和2年1月、4月~11月)

棒受網による操業は、1月15日に三本でゴマサバ主体で始まったが、漁況は低調であったことから、1月下旬から4月下旬まで全船がマサバ主体のたもすくい操業に転向した。マサバ漁況が低調となった4月下旬以降、静岡県船は棒受網による操業を再開した。漁場は5月中旬まで主に三宅島周辺海域に形成され、下旬にはさらに北部海域にも形成された。6月は月を通じて北部海域に漁場が形成されたが、漁況は安定しなかった。7、8月は三宅島周辺海域や北部海域に漁場が形成されたが、黒潮の短期的な変動により漁場及び漁況は安定しなかった。9月から11月にかけて漁場は三宅島周辺海域に継続して形成されたが、漁況は安定しなかった。11月下旬には大島南部周辺海域に漁場が形成され、全船がたもすくいに転向したことから、今期の棒受網操業は終漁となった。

令和2年の静岡県主要4港²の水揚量は、マサバが2.9トンで前年(493トン)を大きく下回り、ゴマサバが1,196トンで前年(1,146トン)並であった。また、ゴマサバCPUEは10.4トンで、前年(7.4トン)を上回った。

棒受網で水揚げされたゴマサバにおける年齢別漁獲尾数の割合は、0歳魚(2020年生まれ)が0%、1歳魚(2019年生まれ)が5.9%、2歳魚(2018年生まれ)が37.4%、3歳魚(2017年生まれ)が23.7%、4歳(2016年生まれ)以上が33.0%であり、2歳魚が漁獲の主体であった。

2 伊東・静浦・沼津・小川の4港。

3 小川魚市場におけるさば類単価(表2)

令和2年の小川魚市場におけるたもすくい・棒受網のさば類月別単価は、マサバが81~332円/kg(1~7月、12月)、ゴマサバが100~138円/kgであった。近年マサバの単価は、水揚量の増加と魚体の小型化により低調に推移している。また、ゴマサバの単価は、水揚量の減少に伴い高値で推移している。

表2 小川魚市場(焼津市)における棒受網・たもすくいのさば類月別単価

単位：円/kg

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成28年	マサバ	203	134	142	105	228	-	324	-	-	-	-	183
	ゴマサバ	92	114	119	101	98	92	87	82	82	84	92	93
平成29年	マサバ	279	145	158	108	72	204	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	111	113	117	90	91	93	79	92	79	85	89	135
平成30年	マサバ	137	109	107	122	99	227	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	121	136	110	103	98	93	93	98	109	121	102	106
令和元年	マサバ	128	121	110	89	81	177	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	118	119	117	99	85	84	123	88	540	128	128	130
令和2年	マサバ	156	125	81	88	98	271	332	-	-	-	-	216
	ゴマサバ	121	120	128	116	112	138	134	122	100	121	102	102

[サクラエビ船曳網]

春漁は4月14日夜～6月3日夜にかけて操業が行われた。この春漁ではサクラエビの主産卵場である湾奥を禁漁区に設定する等の産卵エビの保護を目的とした自主規制が導入された。出漁日数は13日、水揚量は26トンで、漁場は主に湾奥中央部、焼津沖、相良沖に形成された（前年の出漁日数は16日、水揚量は85トン）。水揚げされたサクラエビは、平均体長35.6mm（前年は38.4mm）の0歳エビ（2019年生まれ）が主体であった（図4）。

秋漁は11月1日夜～12月23日夜にかけて操業が行われた。この秋漁では産卵後の1歳エビ（2019年生まれ）を漁獲の主体とし、来春に親となる0歳エビ（2020年生まれ）を保護するため、0歳エビへの漁獲圧を低減するための自主規制が導入された。出漁日数は14日、水揚量は102トンで漁場は主に焼津沖～相良沖に形成された（前年の出漁日数は21日、水揚量は90トン）。水揚げされたサクラエビは、平均体長31.8mm（前年は31.5mm）の0歳エビと平均体長39.2mm（前年は39.5mm）の1歳エビの2群で構成された（図5）。

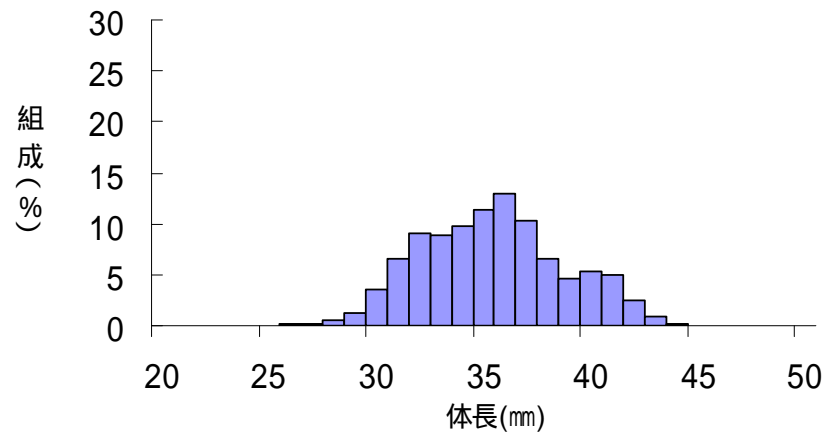


図4 令和2年春漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

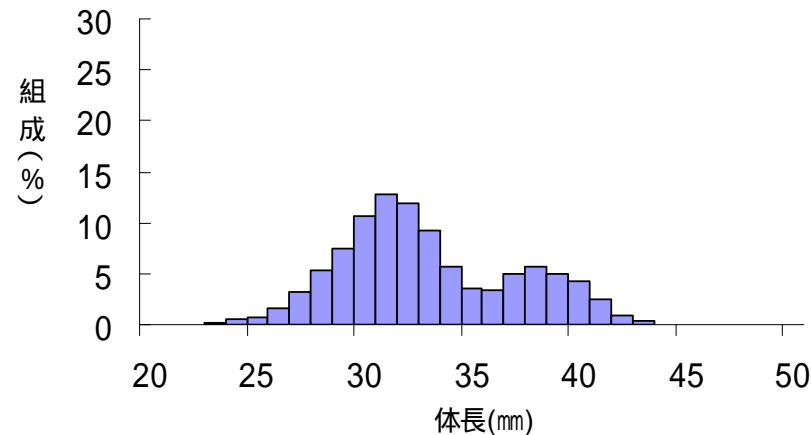


図5 令和2年秋漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

[竿釣り近海カツオ]

1 水揚量と魚価

令和2年の静岡県主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は858トンで、前年の1,195トンを下回り、過去5か年平均（1,078トン）の80%であった（表3、図6）。

魚価は518円/kgで前年（322円/kg）及び過去5か年平均（366円/kg）を上回った（表3、図7）。

2 漁況（漁場形成と魚体）

御前崎港での魚体測定及び漁場聞き取り調査から、漁況はおおむね次のとおり推移した（表3）。

- 1月 水揚げはなかった。
- 2月 水揚げはなかった
- 3月 沿岸、近海竿釣り船の水揚げが始まり、沿岸竿釣り船は銭洲周辺海域(33°～34°N、138°～139°E)で操業し、小（尾叉長49cmモード）カツオを、近海竿釣り船は四国沖海域(28°～29°N、132°～134°E)で操業し、大（尾叉長60cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 4月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(30°～34°N、138°～139°E)で操業し、中（尾叉長53-54cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 5月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(30°～34°N、138°～139°E)で操業し、中（尾叉長54cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 6月 沿岸釣り船が銭洲周辺海域(33°～34°N、138°～139°E)で操業し、大（尾叉長58cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 7月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31°～35°N、134°～140°E)で操業し、極小（尾叉長42cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 8月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31°～35°N、134°～140°E)で操業し、極小（尾叉長42cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 9月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31°～35°N、134°～140°E)で操業し、極小（尾叉長41cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 10月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31°～35°N、134°～140°E)で操業し、極小（尾叉長41cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 11月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31°～35°N、134°～140°E)で操業し、極小（尾叉長43cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 12月 水揚げはなかった

表3 令和2年近海・沿岸竿釣り船のカツオ水揚量等（県内主要5港）

年月	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚/隻 (トン)	平均 単価 (円/kg)	主漁場と魚体 ()内は尾叉長モード、単位はcm
R2年1月	0	0	-	-	-
2月	0	0	-	-	-
3月	24	14	1.7	733	銭洲周辺海域(49)、四国沖海域(60)
4月	111	38	2.9	587	伊豆諸島周辺海域(53-54)
5月	179	77	2.3	613	伊豆諸島周辺海域(54)
6月	115	48	2.4	444	銭洲周辺海域(58)
7月	141	55	2.6	512	伊豆諸島周辺海域(42)
8月	110	59	1.9	532	伊豆諸島周辺海域(42)
9月	80	39	2.1	493	伊豆諸島周辺海域(41)
10月	74	27	2.7	279	伊豆諸島周辺海域(41)
11月	23	15	1.5	428	伊豆諸島周辺海域(43)
12月	0	0	-	-	-
R2年計	858	372	2.3	518	
R元年計	1,195	343	3.5	322	
5か年平均	1,078	297	3.7	366	平成27～令和元年の平均

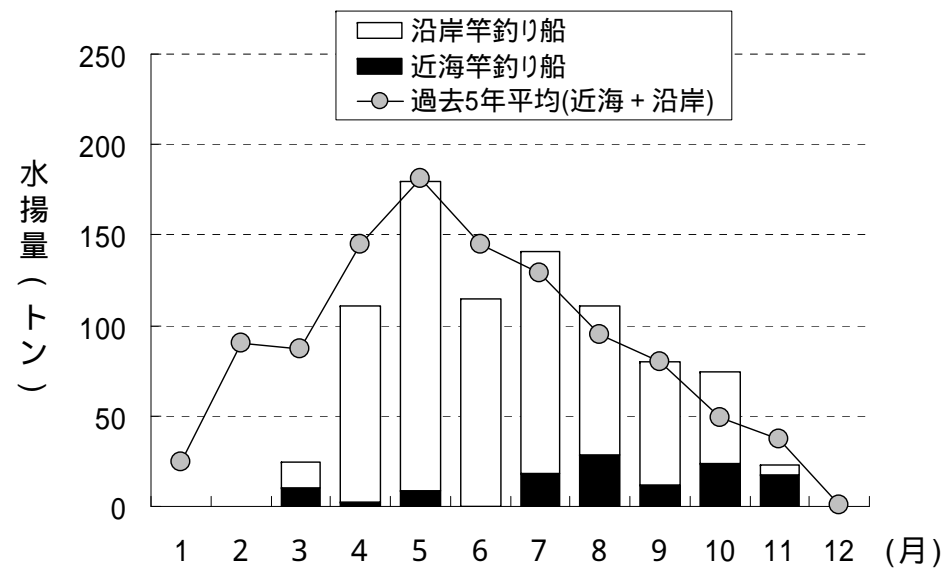


図6 近海・沿岸竿釣りカツオの月別水揚量の推移

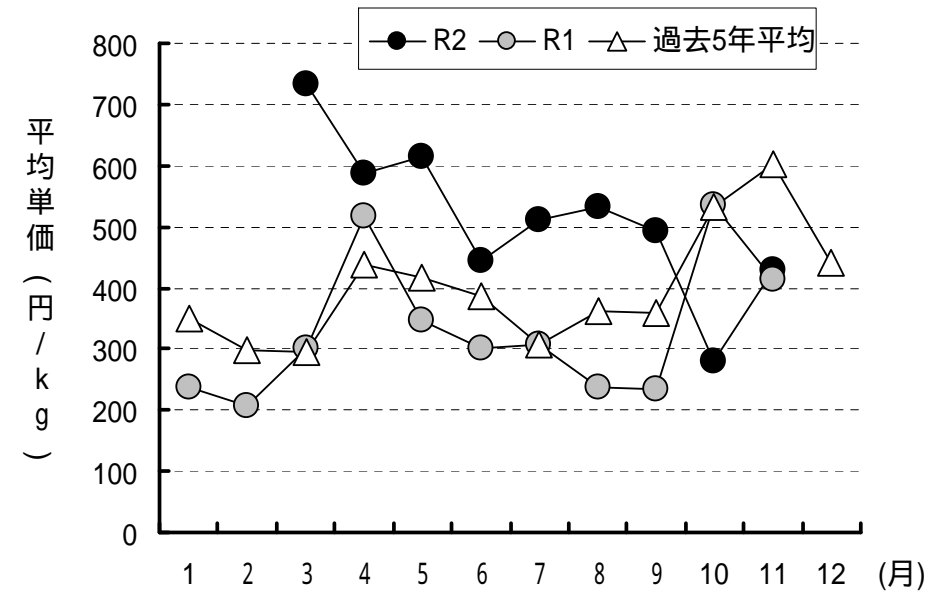


図7 近海・沿岸竿釣りカツオの平均単価の推移

【まき網(いわし類)】

1 マイワシ

令和2年における静浦漁港の総水揚量は0.8トンであった(前年0.2トン、平年*0.6トン)。
 沼津港の総水揚量は、4,844トンで、前年(2,476トン)の2.0倍、平年(3,483トン)の1.4倍であった。最も水揚量が多かったのは3月で2,068トンであった。
 小川港の総水揚量は、1,392トンで、前年(1,470トン)の94.7%、平年(1,520トン)の91.6%であった。最も水揚量が多かったのは3月で496トンであった。
 伊東港の総水揚量は、1,168トンで、前年(1,092トン)の1.1倍、平年(864トン)の1.4倍であった。最も水揚量が多かったのは2月で461トンであった。

2 カタクチイワシ

令和2年における静浦漁港の総水揚量は3.1トンであった(前年水揚なし、平年2.0トン)。
 沼津港の総水揚量は183トンで平年(106トン)の1.7倍であった(前年水揚げ無し)。
 伊東港の水揚げは無かった(前年2トン、平年104トン)。

*平年：過去5カ年(平成27～令和元年)平均

[シラス船曳網]

令和2年度の主要6港(用宗、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)における総水揚量は5,545 トンで、前年(4,585 トン)の1.2倍、平年*(6,131 トン)の90.4%であった。また、駿河湾側(用宗、吉田)では1,991 トンで、前年(1,504 トン)の1.3倍、平年(1,885 トン)の1.1倍、遠州灘側(御前崎、福田、舞阪、新居)では3,554 トンで、前年(3,081 トン)の1.2倍、平年(4,300 トン)の82.6%であった。総水揚金額は4,034,785 千円で、前年(3,579,927 千円)の1.1倍、平年(4,196,625 千円)の96.1%であった。平均単価は728 円/kg で、前年(781 円/kg)の93.2%、平年(684 円/kg)の1.1倍であった。

3月は430 トン、4月は405 トンと減少したが、5月は707 トン、6月は1,153 トンと増加した。その後、7月は680 トンと減少したが、8月は1,170 トンと再び増加し、今漁期最大となった。9月は336 トンと大幅に減少し、10月は344 トン、11月は184 トン、12月は116 トン、1月は21 トンと徐々に減少した。

3月は前年、平年を上回った(前年比1.4倍、平年比1.6倍)。4月は前年並となり、平年を下回った(90.6%、36.0%)。5月は前年、平年ともに下回った(47.5%、38.3%)。6月は前年、平年ともに上回った(2.4倍、1.4倍)。7月は前年を下回り、平年を上回った(79.2%、1.6倍)。8月は前年、平年ともに上回った(4.1倍、5.4倍)。9月は前年を下回り、平年並となった(70.0%、1.1倍)。10月は前年を上回り、平年を下回った(2.1倍、62.6%)。11月は前年を上回り、平年を下回った(3.5倍、44.7%)。12月は前年を上回り、平年並となった(5.2倍、1.0倍)。1月は前年を上回り、平年を下回った(2.1倍、32.2%)(図8)。

シラスの魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、最も水揚量が多かったのは、8月(1,170 トン)であった。マイワシのシラスは3~6月と12~1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は3月(36 トン)で、最も水揚割合が多かった月も同じく3月(8.4%)であった。ウルメイワシのシラスは3~6月と11~1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は3月(8 トン)で、最も水揚割合が多かった月も同じく3月(1.9%)であった(図9)。マイワシのシラスの漁期を通じた水揚割合は平成29年まで親のマイワシ資源の増加とともに近年増加傾向にあったが、その後減少傾向にあり、今漁期は昨年、平年を下回った(昨年比12.5% 平年比6.9%)(図10)。

*平年：過去5カ年(平成27~令和元年)平均

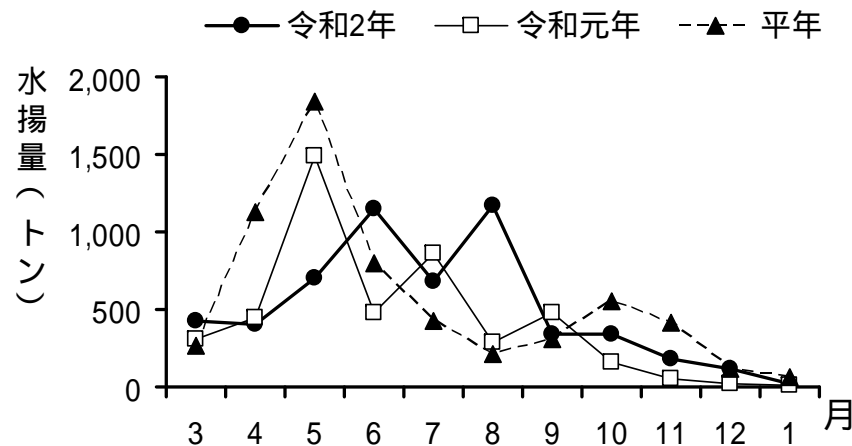


図8 令和2年漁期 主要6港 シラスの水揚量の推移

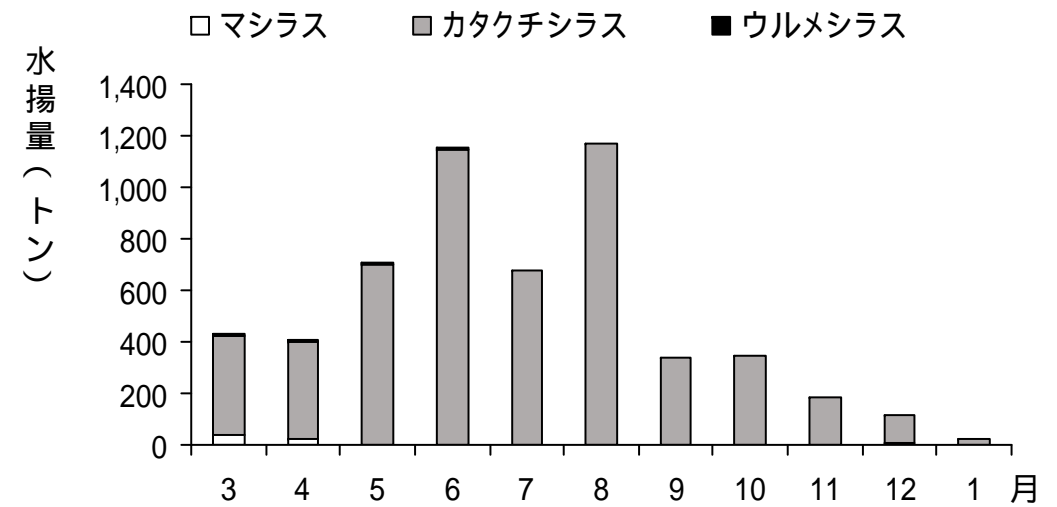


図9 令和2年漁期 主要6港 シラスの魚種別水揚量の推移

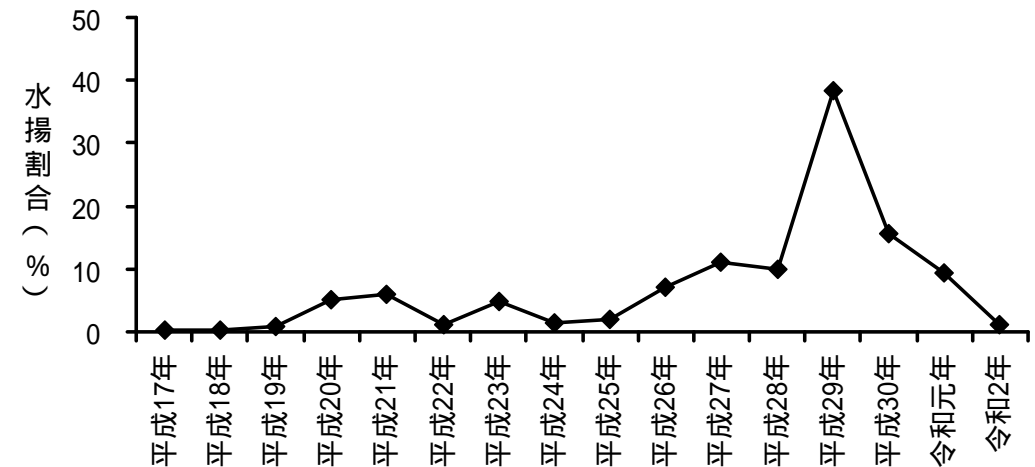


図10 マイワシのシラスの水揚割合の推移

[定 置 網]

令和2年の伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は3,235 トンで、前年水揚量2,391 トンの1.4倍、平年値（昭和57年～令和元年平均）3,979 トンの81%であった。月別水揚量では1、2、4、9、10、12月は前年を上回り、11月は前年並み、3、5、6、7、8月は前年を下回った（図11）。

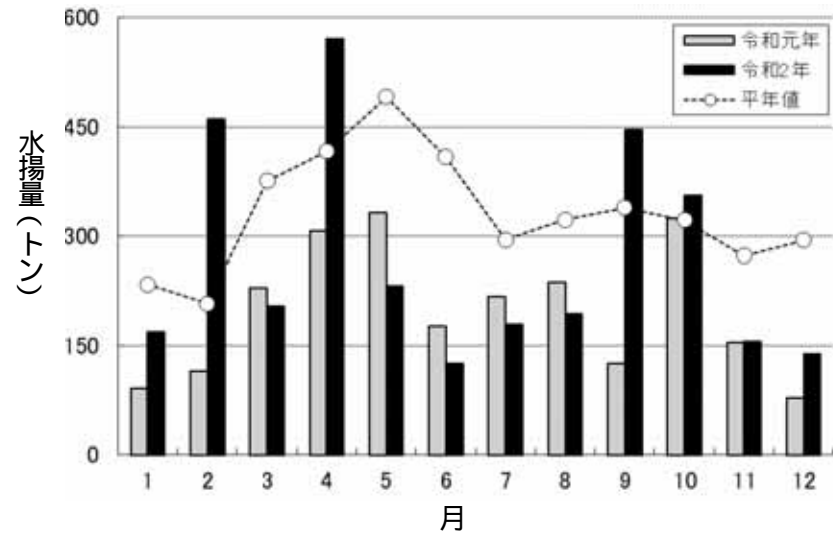


図11 月別水揚量の推移

漁場別水揚量は、古網、川奈、富戸、赤沢、北川漁場は前年を上回り、谷津は前年並み、伊豆山は前年を下回った。水揚量の多かった漁場は、順に北川（さば類、マイワシ、スルメイカ主体）、川奈（マイワシ、さば類、ブリ主体）、古網（さば類、マイワシ、カタクチイワシ主体）であった（図12）。

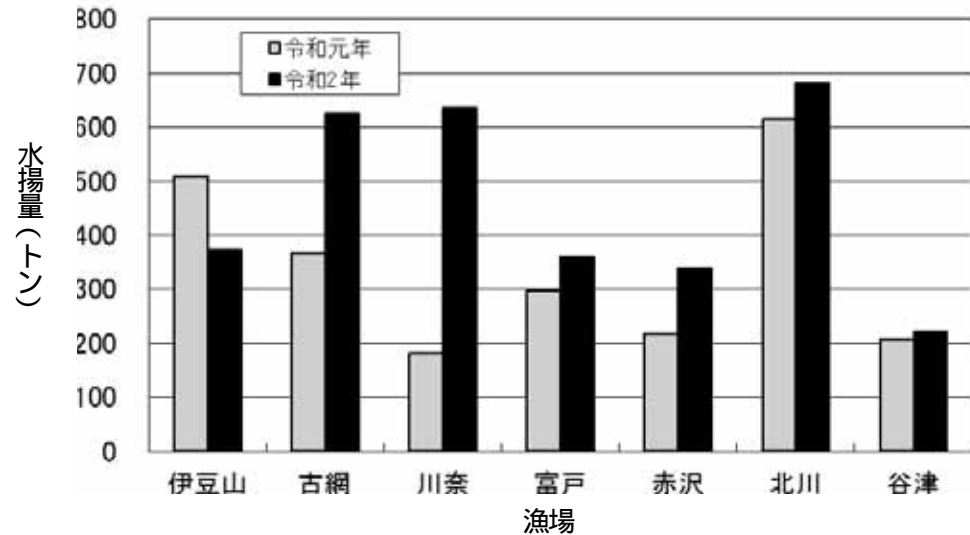


図12 漁場別水揚量

多獲された魚種（上位10種）の水揚量は表4のとおりで、さば類、マイワシ、スルメイカ、マルソウダ、カタクチイワシ、ヤマトカマスは前年を上回り、ブリは前年並、ウルメイワシ、シイラ、オアカム口は前年を下回った。

さば類は1,114 トン、前年比1.4倍、平年比1.1倍で9、5月に水揚量が多かった。さば類のうち、ゴマサバは832 トンで、前年比1.5倍、平年比91%、マサバは108 トンで、前年比55%、平年比1.5倍、さばっこ（小型当歳魚銘柄）は174 トンで、前年比4.0倍、平年比2.5倍であった。

マイワシは667 トンで、前年比3.0倍、平年比2.5倍であった。2、4月に水揚量が多く、2月は中羽～大羽主体であった。

ブリは332 トン、前年比91%、平年比97%で4月に水揚量が多かった。銘柄わらさ、ぶり主体で、わらさは187 トンで前年比2.2倍、平年比1.8倍、ぶりは90.7 トンで前年比56%、平年比83%であった。

スルメイカは181 トン、前年比1.9倍、平年比71%で4、3月に水揚量が多かった。

マルソウダは170 トン、前年比1.4倍、平年比2.2倍で、10月に水揚量が多かった。

表4 多獲された魚種の水揚量

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比
さば類	1,113.5	1.42	1.05
マイワシ	666.8	3.02	2.46
ブリ	331.6	0.91	0.97
スルメイカ	181.1	1.89	0.71
マルソウダ	170.3	1.38	2.22
ウルメイワシ	92.5	0.75	0.45
カタクチイワシ	76.3	1.47	1.21
ヤマトカマス	75.0	1.47	0.13
シイラ	60.9	0.61	13.54
オアカム口	54.5	0.58	0.95

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

